

世界へ 英語版『ヒロシマの記録』を

—コスモス・キャンペーンにご協力を

新英研国際部

人から人への交流を 私達は生徒一人一人の願いを大切に実践を追求し続けている。一人一人を大切にすることは同時に Global に世界のことを考え、みんなを大切にすることにつながる。また私達は英語教育を通して直接に遠くの人々と交流することによって、国境を越え PEOPLE TO PEOPLE の国際交流・連帯を実現できるものと考えている。一人一人が行動することにより平和を自分の手の届くところへ。それは英語教育ばかりでなく民衆の側に立つ教育全般に求められる課題である。

先月号で報告した Eleanor Coerr さんとの交流は新英研のメンバーの地道な交流活動が実を結んだものだ。私をはじめとしてそのような気持を持ちながらも具体的な方法が分からずにいる場合も多い。ニュージーランドのロンギ首相へ激励の手紙を書こうという呼びかけに応じて手紙を書く。返事が来ると自分とニュージーランドとの距離がぐっと近くなる。現地の団体と連絡があれば交流が続くかもしれない。こうした国際連帯・交流を求める実践はまさに私達の現在の課題に答えるものである。

手から手へ平和のプレゼント—コスモスへ参加を今年はヒロシマ40年。その事実を世界に知らせていくことは大切なことだ。市民レベルの交流をとおしてヒロシマの事実を手渡しで知らせていく運動として、コスモス・キャンペーン—Committee to Send *The Meaning of Survival*—を紹介したい。

コスモス・キャンペーンはヒロシマの体験をまとめた *The Meaning of Survival* を世界へ贈り届けようという運動。この本は、原子爆弾投下直後から1981年にローマ法王を迎えるまでのヒロシマの36年を写真と解説で綴った『ヒロシマの記録』(中国新聞社)を、日米108人のボランティアが2年がかりで英文に翻訳したものの。



コスモス・キャンペーンは、米国マサチューセッツ州タフツ大学数学科准教授の秋葉忠利氏の呼びかけで始まった。秋葉氏はアメリカ在住20年。1979年から毎年夏アメリカやヨーロッパのジャーナリスト数人を、ヒロシマ・ナガサキに招請する「アキバ・プロジェクト」の主宰者。これまで21人が来日し、それぞれ1ヵ月の取材を終えて帰国後発表されるヒロシマ・ナガサキレポートは毎年大きな反響を呼んでいる。彼等の目となり耳となっているボランティアの通訳の仲間たちの手によって *The Meaning of Survival* の翻訳も進められた。そしてこの本を世界中の多くの人に読んでもらうと「コスモス」が発足した。事務局担当は同時通訳者・主婦の柴田郁子さん。

その進め方は、1口1万円の基金を募り、日本語版『ヒロシマの記録』を寄付者に贈り、英語版 *The Meaning of Survival* を寄付者の名前前で海外の団体・個人に寄贈するもの。つまり本を寄贈するカンパを募るにとどまらず、寄付をする人がメッセージを付けて直接プレゼントする形となる。海外に知り合いがいなくても事務局のリストに従って寄贈されるので、コスモスへ参加することによって手渡しの平和のプレゼントを世界へ届けることができる。また地域や団体ごとに取り組みを進め、1万円にならなくても少しずつカンパをプールしておいて英語版を海外に送ることもできる。

私達もコスモスに参加し広めていく中で、私達がなぜこの本を送るのか生徒と考え、そのメッセージを本とともに届けることができる。こうした交流がさらに発展すれば平和を願う人々を結ぶネットワークになるに違いない。新英研の支部・サークルでもぜひ広めていただきたい。

(文責・浅川和也)

▶コスモス事務局：〒113東京都文京区本郷1-5-17三洋ビル43 (☎03-813-7813) 郵便振替=東京5-115118* 夜間連絡先：☎0422-51-4043 (柴田郁子)